

## 大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業 事後評価結果

大学名	東京大学
-----	------

### ◇大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業プログラム委員会における評価

(総括評価) <b>A</b>	目的は概ね実現された。
(コメント)	<p>拠点大学の国際化については、総長のリーダーシップの下、国際化に向けて教育体制及び事務体制の改革に取り組み、事業目的を着実に達成していることは評価できる。</p> <p>英語による授業のみで学位が取得できるコースについては、計画どおり開設され、国際化に適する教員の採用、ウェブサイト等での情報の発信や秋入学の実施等、体制の強化に取り組んでいる。また、教養学部のコース及び大学院の工学系研究科、農学生命科学研究科及び公共政策学教育部のコースにおいて志願者数が多いことは評価できる。特に工学系研究科の取組と実績は評価できるため、大学全体へと展開することが望まれる。</p> <p>留学生受入のための環境整備については、ワンストップサービス体制の強化、日本語教育の拡充、学内文書の英語化、宿舍の整備、カウンセリング機能の強化及び奨学金の充実等、経済面と生活面の支援に関して積極的に取り組んでいる。</p> <p>海外大学共同利用事務所の整備については、インド事務所の設置場所をバンガロールに変更したことにより、1年遅れの設置となったが、日本人及びインド人の適切な人材配置、現地におけるネットワーク構築、広報や学生募集等の的確な運営によって、インド人留学生が大幅に増加したことは評価できる。</p> <p>目標の達成状況については、概ね全ての目標を上回っており、着実に達成している。</p> <p>今後の展開及び高等教育の国際化に対する貢献については、4ターム制の導入から実質化へと進展させ、更に一層の国際化の推進を期待する。その際、日本の他大学よりも、アジアや欧米の大学との比較において国際化戦略を構築することが望まれる。特に外国人教員比率等の目標は、より野心的な設定が必要であり、アジアや欧米の大学ではない日本の大学として、日本語や日本文化を中核に据えた、日本を学べる「国際総合日本学」が看板となるように推進することを期待する。</p>